

聴覚障害児童・生徒の言語運用力へのアプローチ

— Good Practice の集成をめざして —

高井小織・村松弘子・藤本裕人・白井一夫 編 (A4版 96ページ)

LaPHICY 聴覚障害教育における「言語運用」を考える会

本書は以下の日本特殊教育学会・自主シンポジウムの記録を整理し考察を加えたものです。

「聴覚障害教育における日本語獲得(習得)支援の実際を踏まえて」(2009~2014; 2011を除く)

「聴覚障害教育における言語運用力育成」(2015~2019)

私達の原点は副題にあるような Good Practice の集成であり、「言語運用」を理論的に深めることを第一の目的としてきたわけではありません。議論を重ねる中で、実践を構想したり分析を進めたりするためには、従来の「言葉の力を育てる取り組み」を踏まえながら「言語運用」の問題に踏み込むことが必要で有益ではないかと考え始めました。…(「はじめに」から)

第1章 問題の検討とシンポジウムのあゆみ

問題意識を確認し10年間の歩みを紹介しています。

第2章 シンポジウム報告

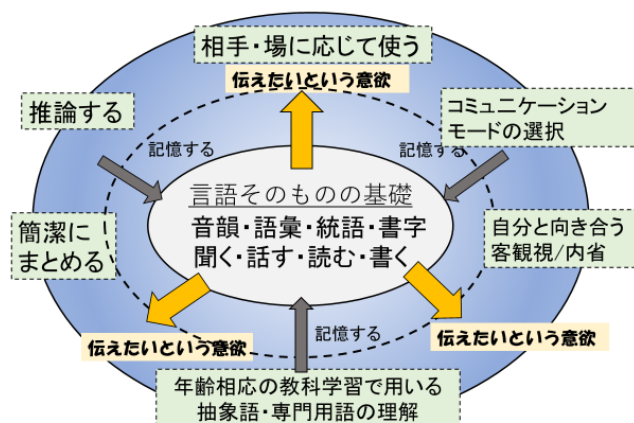
話題提供者が報告をもとに原稿を作成しました。

- I 言語力と言語運用の実際
- II 思春期の心に寄り添って
- III 集団の力と社会参加・自己実現

第3章 理論的検討

指定討論者が報告に考察を加えた論考です。

- 1. 言語運用に関わる諸問題とそのモデルの検討
- 2. 聴覚障害児の言語運用力の評価
- 3. 言語運用とこれからの実践的課題
- 4. 言語運用と自立活動 (目次から)



言語運用にかかわる高井モデル

子ども達の言語運用に関する概念を、一枚で表せる図はないかと考えていた。彼らが用いる言語は、「聞く・話す・読む・書く」という4側面、すなわち言語そのものの基礎である「音韻・語彙・統語・書字」を核としながら、言語運用の力をその外側に重ねるという二重構造をもつと考え、左図のように表した。…「あんこと皮のモデル」と言うこともある。

(第1章より)

頒布価格 1000円(送料別) 送料; 1冊¥200, 2-4冊¥400, 5冊以上は無料

申し込みは [難聴の思春期を考えるページ](#) からメールで

<http://nanchohb.web.fc2.com/> メール: nanchobook@hotmail.co.jp

難聴理解 HB 事務局 新潟市中央区早川町2-3215